

(提案6)

日本学術会議主催学術フォーラム「社会の中の、社会のための科学の推進」の開催について

- 1 開催時期：平成25年8月7日（水）14：00～17：00
- 2 共 催：総合科学技術会議、科学技術振興機構研究開発戦略センター
- 3 開催場所：日本学術会議講堂

4 開催趣旨：

日本学術会議は、今年1月に声明「科学者の行動規範」を大きく改訂し、総合科学技術会議は、6月に「科学技術イノベーション総合戦略～新次元日本創造への挑戦～」を策定した。日本の再生のために、科学技術の最高助言機関である日本学術会議と、我が国の科学技術政策の司令塔である総合科学技術会議の役割と責任は重い。近年、世界的に政策形成における科学技術の助言の質の向上、健全性の維持、行動規範の確立について、真剣な議論が進められている。

日本学術会議と総合科学技術会議の最近の2つの声明・決定を行動として具体化し、社会に実装するための方策はなにか、両機関の役割を改めて確認し、機能の強化をどう実現するのか。このシンポジウムでは、科学技術と政策、そして社会を繋ぐ方策について議論を深める。また、科学技術と政策、社会を繋ぐ上で重要となる人材育成、学術の振興、国際協力等の視点についても研究の現場からの意見を踏まえて議論を深める。

5 次 第：(予定を含む)

総合司会（進行）：日本学術会議事務局職員

13:00 開会挨拶 吉川 弘之（日本学術会議名誉会員、科学技術振興機構研究開発戦略センター長）

（セッション1） 真に科学が社会に貢献していくために（仮）

13:05 講演1 総合科学技術会議の取組の現状と今後  
原山 優子（総合科学技術会議有識者議員）

13:25 講演2 日本学術会議の取組みの現状と今後  
大西 隆（日本学術会議会長、慶應義塾大学大学院政策・

13:45 講演3 産業界の意識と取組 (仮)  
住川 雅晴 (株)日立製作所顧問 (予定))

14:05 休憩

(セッション2) 最先端現場の科学者の声 (仮)

14:25 フローアーとのディスカッション

モデレーター

笠木 伸英 (日本学術会議連携会員、JST-CRDS 上席フェロー)

話題提供 (各5分)

若手研究者1 (調整中)

若手研究者2 (調整中)

若手研究者3 (調整中)

※若手研究者3名中1名は若手アカデミー委員会委員を想定

コメンテーター

大西 隆 (日本学術会議会長、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特別  
招聘教授)

久間 和生 (総合科学技術会議有識者議員)

原山 優子 (総合科学技術会議有識者議員)

住川 雅晴 (株)日立製作所顧問 (予定))

15:55 閉会挨拶 (調整中)

## (提案7)

日本学術会議主催学術フォーラム「科学・技術を担う将来世代の育成方策を考える―教育と科学・技術を価値創造につなぐために―」の開催について

- 1 開催時期：平成25年8月12日（月）13:30～17:30
- 2 開催場所：日本学術会議講堂
- 3 開催趣旨

課題別委員会：科学・技術を担う将来世代の育成方策検討委員会では、将来の日本の科学技術を担う人材の育成のための方策、活動などが、全体として建設的な方向性をもっているとは言えない状況を検証し、平成25年2月に「提言：科学・技術を担う将来世代の育成方策」を公表した。その要点は、①初等教育、中等教育、高等教育、さらに生涯教育の間の連携と橋渡しの強化、②専門的研究者・技術者の育成、③ポスドク等の専門的研究者・技術者の活躍を支援するための社会システムの構築等である。

一方、これまでも様々な人材育成についての議論がなされ、報告書が出されているが、それらが実効ある大きな流れとなっていないのは、それらの諸施策をつなぐ仕組みと全体のビジョン、及び司令塔の機能が弱いことに原因があることも、提言では指摘している。

21世紀におけるわが国の持続的発展の実現のために、科学・技術の継続的革新と、それを担う次世代人材育成に向けた教育の強化によって、新しい社会経済的価値の創造、すなわち、より豊かで調和ある社会の創造を進めることが重要である。

そのような観点から、上記の「提言」では、教育の各段階の橋渡し（科学技術を担う人材と科学技術と社会との関わりについて判断できる人材の育成、各教育段階における科学技術イノベーション教育との一体的推進）、専門的科学技術人材の活躍のための社会基盤（キャリア支援、セーフティネット構築、人事交流）等に係る各政策の一体的振興策を提案している。

今回のシンポジウムでは、本提言の報告と共に、科学・技術を担う研究者、技術者、産業界をつなぎ、また人材育成の各段階（初等-、中等-、高等-、生涯教育）、を担う教育界、関連行政界、産業界も含めた様々な関係者が一堂に会して、次世代の科学技術を担う人材育成に対する理解、共感、協働の強化と、そのために必要なインフラの整備などについて議論をし、本課題に対する社会の認識と理解を深めることを目的とする。

4 次第：(予定を含む)

13:30

開会挨拶 調整中

13:40

講演 教育と科学・技術を価値想像につなぐために

司会 北原和夫 (日本学術会議特任連携会員、東京理科大学大学院科学教育研究科教授)

I. 提言「科学・技術を担う将来世代の育成方策～教育と科学・技術イノベーションの一体的振興のすすめ～」

柘植綾夫 (日本学術会議連携会員・日本工学会会長)

II. 初等・中等教育と各教育段階を結ぶ橋渡し構造

上野耕史 (日本学術会議特任連携会員・国立教育政策研究所調査官)

III. 大学院博士課程修了者を活用する社会とそのための教育の充実

谷口直之 (日本学術会議連携会員、理化学研究所グループディレクター)

IV. 教育学及び教育現場からの課題

佐藤 学 (日本学術会議会員・学習院大学教授)

15:40

休憩

15:50

パネルディスカッション

モデレーター：

室伏きみ子 (日本学術会議第二部会員、お茶の水女子大学教授)

登壇者：

調整中 (科学技術を担う将来世代の育成方策検討委員会委員)

17:20

閉会挨拶 北原和夫 (日本学術会議特任連携会員、東京理科大学大学院科学教育研究科教授)

公開シンポジウム「教育現場における心理学」の開催について

1. 主催 日本学術会議心理学・教育学委員会社会のための心理学分科会
2. 共催 公益社団法人日本心理学会
3. 日時・場所
  - (1) 平成 25 年 7 月 14 日 (日) 13 時 00 分～17 時 00 分 鹿児島大学工学部稲盛会館
  - (2) 平成 25 年 8 月 22 日 (木) 13 時 00 分～16 時 30 分 東京大学本郷キャンパス 経済学研究科棟 1 番教室
4. 分科会 分科会開催予定なし

5. 開催趣旨

認知心理学が処理水準、知識構造、メタ認知、学習方略などを扱うようになってから、教科学習に適用しその改善をはかるための枠組みとして大きな有用性をもつようになった。最近では、道具の利用、他者との協同も視野に入れた授業デザインの構築に有効な役割を果たしている。教育現場での心理学の有効性と課題について、具体的な実践例を通して考えていきたい。

6. 次第

- (1) 7 月 14 日 鹿児島大学工学部稲盛会館  
司会 市川伸一\* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授)  
13:00 挨拶  
箱田裕司\* (日本学術会議第一部会員・社会のための心理学分科会委員長、九州大学大学院人間環境学研究院院長・教授)
- 13:05 趣旨説明  
大坪治彦 (鹿児島大学教育学部教授)
- 13:10 大坪治彦 (鹿児島大学教育学部教授)  
「自己肯定感の高まりがもたらすもの」
- 14:00 迫田孝志 (鹿児島大学教育学部教授)  
「学校は家庭教育をどうとらえているか」
- 14:50 東畑貴昭 (鹿児島市立原良小学校教諭)  
「教師の板書と児童のノートテイキング」

- 15 : 40 中野健作 (鹿児島市立伊敷中学校教諭) 指定討論  
 16 : 10 総合討論  
 17 : 00 閉会の辞 大坪治彦 (鹿児島大学教育学部教授)

(2) 8月22日 東京大学本郷キャンパス経済学研究科棟1番教室

- 司会 市川伸一\* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授)  
 13 : 00 挨拶  
箱田裕司\* (日本学術会議第一部会員・社会のための心理学分科会委員長、九州大学大学院人間環境学研究院院長・教授)  
 13 : 05 趣旨説明  
市川伸一\* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授)  
 13 : 10 市川伸一\* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授)  
 「学習意欲と学力の向上をめざした授業づくり—『教えて考えさせる授業』の提案と実践—」  
 13 : 50 植阪友理 (東京大学教育学研究科学校教育教育高度化センター専任助教)  
 「認知心理学から見た学習改善—学習観・学習方略にどうはたらきかけるか—」  
 14 : 30 休憩  
 14 : 40 斎藤純 (文京区千駄木小学校教諭) 指定討論  
 16 : 00 床勝信 (岡山市立野谷小学校教諭) 指定討論  
 16 : 20 総合討論  
 16 : 30 閉会の辞 市川伸一\* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授)

7. 関係部の承認の有無：第一部承認

(\*印の講演者等は、本分科会委員)

(提案9)

公開学術講演会「未来社会を築く生命科学と医療のフロンティア」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議第二部、日本学術会議近畿地区会議、京都大学
2. 共 催：なし
3. 後 援：公益財団法人日本学術協力財団、日本医歯薬アカデミー
4. 日 時：平成25年8月3日（土）13：00～15：45
5. 場 所：京都大学薬学部記念講堂
6. 部会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

近年、生命科学或いはこれを基盤とする医療が著しく発展し、未来社会の姿にも大きな影響を与えるものと考えられている。本講演会では、「ゲノムコホート研究」、「iPS細胞研究と再生医療」、「創薬」の3つの視点から、生命科学の進歩を俯瞰し、将来の医療や社会の在り方について総合的に議論を行う。

8. 次 第：

13：00 開会挨拶

大西 隆（日本学術会議会長、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究  
科特別招聘教授）

三嶋 理晃（日本学術会議連携会員、京都大学理事・副学長・京都大学  
大学院医学研究科呼吸器内科学教授・京都大学医学部附属  
病院院長）

山本 正幸\*（日本学術会議第二部部長、公益財団法人かずさDNA研  
究所所長）

13：15 講演 「ヒト生命情報統合研究の拠点構築－国民の健康の礎となる大規模コ  
ホート研究－」

本庶 佑（日本学術会議連携会員、静岡県公立大学法人理事長、京都大  
学大学院医学研究科免疫ゲノム医学講座客員教授）

14：00 講演 「iPS細胞研究が切り開く未来の医療」

中畑 龍俊（日本学術会議連携会員、京都大学 iPS細胞研究所副所長・  
特定拠点教授）

14：45－15：00 （ 休憩 ）

15：00 講演 「オールジャパンのアカデミア創薬研究」  
長野 哲雄\*（日本学術会議第二部幹事、東京大学創薬オープンイノベーションセンター特任教授）

15：45 閉会

（司会） 橋田 充\*（日本学術会議第二部会員、京都大学大学院薬学研究科薬品動態学分野教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(\*印の講演者は、主催部委員)



(提案10)

公開シンポジウム「がんの予防・予後に必要な身体活動・運動」の開催について

1. 主 催 日本学術会議健康・生活科学委員会健康・スポーツ科学分科会、臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同生活習慣病対策分科会
2. 共 催 日本体育学会
3. 日 時 平成25年8月28日(水) 16:00~17:50
4. 場 所 立命館大学 びわこ・くさつキャンパス (滋賀県草津市野路東 1-1-1)
5. 分科会の開催 開催予定なし
6. 開催趣旨  
我が国における生活習慣病としてのがんの発症の機序及び、がんの外科的治療後のリハビリテーション(特に運動を用いた)についての最新の知見について議論し、今後の生活習慣病としてのがんに対する運動・身体活動の役割を見出すことを目的とする。
7. 次 第  
開会挨拶 田畑 泉\*(日本学術会議第二部会員、立命館大学スポーツ健康科学部長・教授)  
  
司会 橋本健志(立命館大学スポーツ健康科学部准教授)  
  
登壇者  
澤田 亨 (独立行政法人 国立健康・栄養研究所健康増進部身体活動評価研究室長)  
中釜 斉\*(日本学術会議特任連携会員、独立行政法人国立がん研究センター研究所所長)  
青井 渉 (京都府立大学大学院生命環境科学研究科助教)  
井上順一郎(神戸大学医学部附属病院リハビリテーション部理学療法士)  
  
閉会挨拶 下光輝一\*(日本学術会議連携会員、公益財団法人 健康・体力づくり事業財団理事長)
8. 関係部の承認の有無：第二部承認

(\*印の講演者等は、本分科会委員)

(提案 11)

公開シンポジウム「ヒトと希少動物との関わりを考える」の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会
2. 共 催：公益社団法人日本畜産学会第 117 回大会実行委員会
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 25 年 9 月 9 日（月） 16：30～18：20
5. 場 所：新潟大学五十嵐キャンパス 総合教育研究棟 E260 講義室
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

日本畜産学会第 117 回大会を 19 年ぶりに新潟（新潟大学五十嵐キャンパス総合教育研究棟）にて、平成 25 年 9 月 9 日、10 日に開催することとなった。佐渡島を有する新潟ならではの大会企画として、日本学術会議との共催のもとで、トキをはじめとした希少動物を対象とした分野で活躍されている実践者と研究者をお招きし、それぞれの立場からヒトと希少動物との関わりについてご講演いただく学術シンポジウムを開催することとした。

8. 次 第：

16：30 開会挨拶

新村 末雄（新潟大学農学部長）

16：35 トキの飼育と野生復帰の現状

金子 良則（佐渡トキ保護センター）

16：55 クジラの有効保全のために

福井 豊（北海道シープ・ブリーディング・サービス代表）

17：15 遺体が語る希少種の素顔

遠藤 秀紀（日本学術会議連携会員、東京大学総合研究博物館教授）

17：35 日本の固有家畜－特にウシ品種の多様性低下と保全対策

内田 宏（奥州市牛の博物館館長、宮城県農業短期大学名誉教授）

黒澤 弥悦（東京農業大学教職・学術情報課程教授）

17：55 ヒトと希少動物のこれから（仮題）

林 良博\*（日本学術会議連携会員、国立科学博物館館長）

18：15 閉会挨拶

佐藤 英明\*（日本学術会議第二部会員、（独）家畜改良センター理事長）

司 会： 門脇 基二（新潟大学農学部教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(\*印の講演者は、本分科会委員)

## (提案12)

公開シンポジウム「社会とシミュレーションー理論と応用」の開催について

- 1 主 催 日本学術会議社会学委員会社会理論分科会
- 2 後 援 数理社会学会、社会情報学会、社会・経済システム学会、計測自動制御学会、PAAA (Pan-Asian Association for Agent-based Approach in Social Systems Sciences)
- 3 日 時 平成25年9月10日 (火) 13:00～16:30
- 4 場 所 芝浦工業大学豊洲キャンパス 402教室
- 5 分科会 開催予定無し

### 6 開催趣旨

現代社会は、環境問題、エネルギー危機、グローバリゼーションなど多くの深刻な問題に直面しているが、これら諸問題には、「多様な要素が複雑に絡み合う」という側面を共有している。アカデミズムがこの複雑な問題に取り組むには、既存のディシプリンに閉じこもることなく多様な知を柔軟に組み合わせる必要がある。そして、シミュレーションが、個別分野間の「言葉」の違いを乗り越える有力なツールの1つとして考えられている。

本シンポジウムでは、シミュレーションと社会科学の関係を議論するとともに、代表的な研究事例を報告して頂き、これらを素材に、実践家や社会理論家を交えて、社会シミュレーションの可能性と応用の方向を探らうとするものである。

### 7 次 第

13:00 – 13:10

趣旨説明・司会 中井 豊\* (日本学術会議連携会員、芝浦工業大学理工学研究科教授)

13:10 – 14:10

第1部：【シミュレーションと社会科学】

講演

「シミュレーションと社会科学の今後」

今田 高俊\* (日本学術会議第一部会員、東京工業大学大学院社会理工学研究科教授)

「社会シミュレーションの射程」

中井 豊\* (日本学術会議連携会員、芝浦工業大学理工学研究科教授)

「シミュレーションと社会理論の構築」

遠藤 薫\*（日本学術会議連携会員、学習院大学法学部教授）

14:10 – 14:50

第2部：【社会シミュレーションの成果】

報告 「人口動態の特徴を考慮したエージェントベースの人口推計モデル」

喜多 一（京都大学国際高等教育院教授）

報告 「経済活動と地域再生を社会シミュレーションで捉える」

中丸 麻由子（東京工業大学社会理工学研究科准教授）

14:50 – 15:00

休憩

15:00 – 16:30

第3部：討論

討論者

第1、2部報告者5名に加えて

【実践家の立場から】

金谷 泰宏（国立保健医療科学院健康危機管理研究部部長）

嗟峨 生馬（特定非営利活動法人アースデイマネー・アソシエーション代表理事）

【理論家の立場から】

黒石 晋\*（日本学術会議連携会員、滋賀大学経済学部教授）

8 関係部の承認の有無：第一部承認

(\*印の講演者等は、本分科会委員)

ダイアログセミナー「放射線医療の将来展望と基盤」の開催について

1. 主 催 日本学術会議臨床医学委員会放射線防護・リスクマネジメント  
分科会、同委員会放射線・臨床検査分科会、基礎医学委員会・  
総合工学委員会合同放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会
2. 共 催 独立行政法人放射線医学総合研究所、医療被ばく研究情報ネットワーク
3. 後 援 なし
4. 日 時 平成25年9月14日(土) 13:30~17:00
5. 場 所 京都大学 東京オフィス (品川インターシティA棟27階)  
〒108-6027 東京都港区港南2-15-1
6. 分科会の開催 なし

7. 開催趣旨

放射線医科学コンソーシアムの中核機関(学会、大学、研究所)の代表が集まり、20年後の放射線医療の将来像について共通認識を深め、具体的アプローチについて検討する。特にイノベーション創出に必要な医工連携や基礎と臨床の連携、放射線治療歴のデータ集積やがん登録の整備、医学利用の実態把握に関する情報の集約、様々な社会基盤との連結による課題解決に向けたアプローチについて議論する。一般や行政、報道関係等からの参加も得て、議論の透明性を確保しつつ、社会的コンセンサスを形成する。

8. 次 第

趣旨説明

米倉 義晴\* (日本学術会議会員、放射線医学総合研究所理事長)

第1部 放射線医療の将来展望

座長：遠藤 啓吾\* (日本学術会議連携会員、京都医療科学大学学長)

放射線診断：形態診断と機能診断の融合、Integrated Diagnostics

栗林 幸夫 (慶應義塾大学医学部教授、日本医学放射線学会理事長)

放射線治療：需要拡大と新たな治療法

西村 恭昌（近畿大学医学部放射線医学教室教授、日本放射線腫瘍学会理事長）  
核医学：Theranostics：RI 内用療法と分子イメージング

井上登美夫\*（日本学術会議連携会員、横浜市立大学大学院医学研究科放射線医学教授、日本核医学会理事長）

## 第2部 放射線医療イノベーションを支える基盤

座長：柴田 徳思\*（日本学術会議連携会員、千代田テクノ株式会社大洗研究所研究主幹）

理工学系基盤：画像技術を用いた放射線治療の高度化（4次元治療と Adaptive Therapy）

遠藤 真広（九州国際重粒子線がん治療センター副センター長、日本医学物理学会会長）

生物実験系基盤：メカニズム研究から分かること

宮川 清\*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院医学系研究科教授、日本放射線影響学会会長）

社会医学系基盤：社会基盤との連携が抱える課題

米倉 義晴\*（日本学術会議会員、放射線医学総合研究所理事長、医療被ばく研究情報ネットワーク代表）

## 第3部 パネルディスカッション これからの5年でできること

ファシリテータ：佐々木 康人\*（日本学術会議連携会員、湘南鎌倉総合病院附属臨床研究センター センター長）

テーマ1:放射線治療・画像診断情報の集約について

テーマ2:社会基盤を利用した情報収集について

テーマ3:基礎・臨床・疫学の情報連結について

## 9. 関係部の承認の有無：第二部承認、第三部承認

(\*印の講演者等は、本分科会委員)

公開シンポジウム「人生90年時代における運動器の健康の支援・充実を  
目指して―障がい者の運動器の健康の充実―」の開催について

1. 主 催：日本学術会議臨床医学委員会運動器分科会
2. 共 催：体力医学会
3. 日 時：平成25年9月23日（月）13:10～15:10
4. 場 所：日本教育会館 A会場
5. 分科会の開催：開催予定なし

6. 開催趣旨：

体力医学（科学）の目的は、「健康にして活動力に満ちた体力づくり」、「運動能力の強化」「加齢による能力減退の抑制、能力強化」など多岐にわたる所にある。これらの目的は万人に公平、普遍的に付与された権利でもある。一般的な能力を有する人、スポーツ能力にたけた人等に向けられがちな体力科学の目的としては高い能力獲得に向けた研究である一方、大きな障害を表した方々、生まれながらにして障がいをもった方々の康寧に向けての体力的分析も当然の研究目的とした体力医学会としては行っている。

今回日本学術会議運動器分科会はこのような活動を日々行っている体力医学会との共催シンポジウムを行いたいと考えている。

7. 次 第：

司会：福林 徹\*（日本学術会議連携会員、早稲田大学スポーツ科学学術院教授）  
吉岡 利忠（前弘前学院大学学長）

シンポジスト：

「肢体不自由者の運動と健康」

岩谷 力\*（日本学術会議連携会員、国立障害者リハビリテーションセンター顧問）

「成人になった肢体不自由児の運動器管理と問題点」

芳賀 信彦\*（日本学術会議連携会員、東京大学医学部リハビリテーション医学教授）

「障害者スポーツをめぐる社会環境の現状と課題」

海老原 修（横浜国立大学教育人間科学部教授）



「アダプテッドスポーツの可能性と今日的課題」

中澤 公孝（東京大学大学院総合文化研究科教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

(\*印の講演者等は、本分科会委員)

(提案15)

公開シンポジウム「認知心理学における事実と虚構の打開」の開催について

1. 主催 日本学術会議心理学・教育学委員会社会のための心理学分科会
2. 共催 日本認知心理学会
3. 日時・場所  
平成25年10月19日(土)13時30分～16時30分  
京都大学百周年時計台記念館
4. 分科会  
分科会開催予定なし
5. 開催趣旨  
認知心理学がこれまで実証的に明らかにしてきた事実と世間一般で信じられていることの間には大きな乖離が見られる場合がある。認知心理学の基礎的領域から高次の認知機能にわたる様々な問題についてこのような乖離を取り上げ、認知心理学の最先端の知見に基づき、常識による誤解を解きほぐしたい。
6. 次第  
司会 箱田 裕司\*(日本学術会議第一部会員・社会のための心理学分科会  
委員長、九州大学大学院人間環境学研究院院長・教授)  
13:30 趣旨説明  
箱田 裕司\*(日本学術会議第一部会員・社会のための心理学分科  
会委員長、九州大学大学院人間環境学研究院院長・教授)  
13:40 「認知心理学に関する市民の知識とニーズ:研究者とのギャップとその解消」  
楠見孝(京都大学教育学研究科教授)  
14:20 「好きと嫌いの在処」  
山田祐樹(山口大学時間学研究所助教授(特命))  
15:00 休憩  
15:10 「高次認知機能にも運動制御機能が重要」  
乾 敏郎\*(日本学術会議連携会員、京都大学大学院情報学研究科教授)  
15:50 総合討論
7. 関係部の承認の有無:第一部承認

(\*印の講演者等は、本分科会委員)

(提案16)

公開シンポジウム「医療現場における心理学」の開催について

1 主催 日本学術会議心理学・教育学委員会健康・医療と心理学分科会

2 共催 公益社団法人日本心理学会

3 日時・場所

平成25年10月20日(日) 14時00分～17時00分 東京大学工学部駒場キャンパス 21KOMCEE レクチャーホール

4 分科会 分科会開催予定なし

5 開催趣旨

医療現場では様々な疾病や障害に関して心理学の立場からのアプローチが実践されている。どのように実践されどのように社会の期待に応えているのか。医療現場の最前線で活躍している専門家の声を聴くことにより、心理学が担う社会的役割を一般市民へ伝えるとともに、病院で働く心理学の専門家や医療スタッフとも意見の交換を行う機会として、本公開シンポジウムを企画することとなった。子どもの心身症、糖尿病、高次脳機能障害、ガンに関する実践が報告される。

6 次第

司会 丹野 義彦\* (日本学術会議会員、東京大学大学院総合文化研究科教授)

14:00 下山 晴彦\* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授)

「子どもと若者の領域における認知行動療法」

14:30 鈴木 伸一 (早稲田大学人間科学技術院教授)

「内科領域における認知行動療法」

15:00 菊池 安希子 (国立精神・神経医療研究センター司法精神医学研究部  
専門医療・社会復帰研究室長)

「司法精神科における認知行動療法」

15:30 指定討論 石垣 琢磨 (東京大学大学院総合文化研究科准教授)

16:00 総合討論

7 関係部の承認の有無：第一部承認

(\*印の講演者等は、本分科会委員)

## (提案17)

「平成25年度女子中高生夏の学校2013～科学・技術者のたまごたちへ～」  
の開催について

1 主 催：日本学術会議科学と社会委員会科学力増進分科会、同科学者委員会  
男女共同参画分科会、独立行政法人国立女性教育会館

2 日 時：平成25年8月8日（木）～8月10日（土）

3 場 所：独立行政法人国立女性教育会館  
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728番地

4 分科会の開催：なし

5 開催趣旨：

女子中高生が科学技術の世界の楽しさを「体験する」、科学技術の世界で生き生きと活躍する女性たちと「交流する」、科学技術に関心のある仲間や先輩と「知り合う」ための機会として「女子中高生夏の学校2013～科学・技術者のたまごたちへ～」を開催する。

このプログラムは、2泊3日の合宿研修を通じて、女子中高生と科学研究者・技術者、大学生・大学院生等が少人数を単位に親密に交流し、理系進路選択の魅力を伝えるものである。理系の分野も様々であり、すでに理系の道を進んでいる女子中高生、これから夢を追いかける人、不安を抱く人に対し、より深くより広く自分たちの視野を広げる機会を提供する。

また、女子中高生の進路選択について、身近な支援者である保護者や教員向けのプログラムもそれぞれ設定している。子どもの将来像が描けるよう、よきアドバイスができるように理系進路選択についての理解を深めることを目指す。

6 プログラム：

<第1日 8月8日（木）>

(1) 開校式

13:00～13:30

開会宣言 長妻 努(企画委員長(地球電磁気・地球惑星圏学会))

挨拶 内海 房子(国立女性教育会館理事長)

生源寺 眞一\*(日本学術会議会員、名古屋大学大学院生命農  
学研究科教授)

オリエンテーション 古澤 亜紀((茨城県立水戸農業高等学校教諭))

(2) サイエンスアンバサダー I 「自分の将来について考えよう」

13:30～14:15

「夏の学校」に参加するに当たり、合宿研修のオリエンテーションやグループ内での自己紹介、学生TA（ティーチングアシスタント）の講話などを通じて、合宿研修のねらいや目的を理解し、主体的に研修に参加する気持ちを高める。

(3) キャリア講演

14:30～16:00

女子中高生にとって知名度のある企業で働く女性から、現在の生活や仕事のことなど理系進路の魅力について講話を通じて、将来理系で働くことの意義や多様な理系の進路について理解を深める。

講師 蓑田 裕美(株式会社資生堂 品質評価センター学術室国立科学博物館認定サイエンスコミュニケーター)

平口 暢子(株式会社NTTドコモ資材部端末調達計画担当)

(4) 女性科学・技術者のバーチャル職場探訪

16:15～17:45

JRの鉄道総合技術研究所と国立女性教育会館をインターネットで結び、女性研究者・技術者が、ふだん直接目にするのでできない職場の様子を紹介。会場からの質疑応答も行う予定。

コーディネーター 調整中（JR鉄道総合研究所）

(5-1) 学生企画「サイエンスバトル!？」【女子中高生用】 19:15～20:45

グループで協力し合い、学生スタッフが出題する課題やクイズに答えるスタンプラリーに挑戦しながら、グループの親交を深める。

(5-2) 夏の学校を知る【保護者・教員用】

19:15～20:45

今までの「夏の学校」の様子をDVDの視聴や説明を通じて、3日間の研修の流れや意義の理解を促す。

(6) 天体観望会<希望者のみ参加>

21:00～22:00

自然豊かな国立女性教育会館の夏の夜空を天体望遠鏡で観察。

<第2日 8月9日(金)>

(7) 学生企画「才媛双六」

9:00～10:00

学生スタッフが作成したサイエンスクイズに答え、理系女子のキャリアを疑似体験するゲーム(双六)を行う。なお、キャリアは「夏の学校」卒業後から始まり、進学、就職や結婚、育児など理系女子特有の悩みや人選に関わる様々な出来事を盛り込み、参加者に理系女子の夢やライフプランについて具体的なイメージを抱けるよう工夫。理系進路選択の支援となるヒントを得られるプログラムである。

**(8-1) サイエンスアドベンチャーⅠ「ミニ科学者になろう」【女子中高生用】**

**10:15～12:00**

理系の各分野における研究者・技術者と交流しながら、実験・実習にじっくりと取り組む。進路を理系にするか文系にするか迷っている生徒向けの不思議体験コースと専門性の高いチャレンジコースの2種類の実験を用意する予定。(参加決定時に実験・実習の希望調査を行う。)

**講師 調整中**

**(8-2) 実験・実習の参加・見学【保護者・教員用】**

**10:15～12:00**

女子中高生が取り組んでいる「サイエンスアドベンチャーⅠ『ミニ科学者になろう』」の実験や実習を実際に見学・参加することを通じて、理系進路選択を応援する意識を高めることを目的とする。

**(9) 写真撮影**

**13:00～13:15**

**(10-1) サイエンスアドベンチャーⅡ「ミニ科学者になろう・報告会」【女子中高生用】**

**13:15～13:45**

午前中に体験した実験・実習について、その内容をグループ内で報告し合っ情報共有。自分の行ったことを他の人に報告することで、プレゼンテーション能力の向上や学校や地域に戻ってのアンバサダー活動(学んだことを広めたり、発信したりすること)に生かすことを目的とする。

**コーディネーター 岡村 美好(山梨学院大学大学院准教授)  
大澤 悠(埼玉県比企郡滑川中学校教諭)**

**(10-2) サイエンスカフェⅠ「ポスター展示・キャリア相談」【保護者・教員用】**

**13:15～15:15**

女子中高生の理系進路選択への支援に向けて、男女共同参画学協会連絡会や企業、大学等のポスターブースを回り、最先端の科学技術について知る機会である。また、理系の進路について相談することで我が子や生徒の進路に関する不安や悩み等の解決に近づける場である。

**(11-1) サイエンスアドベンチャーⅢ「科学・技術者と話そう」【女子中高生用】**

**13:45～17:30**

女子中高生に理系進路選択の魅力を伝えるため、次の①～④のブースを設け、様々な人と交流。様々な分野、世代の人と交流することで、理系進路選択への不安や悩み等の解決に近づける場である。

① ポスター展示

30程度の展示ブースを設置し、協力学会、企業や大学等、様々な立場の研究者・技術者によるポスター展示や演示実験を行う。理系の世界で活躍する人たちや最先端の技術に触れる機会である。

② キャリア相談

研究者・技術者や女子大学生・大学院生などが女子中高生の理系進路選択に関する相談に応じる。女子中高生の進路に関する不安や悩み等の解決や理系進路選択について明確な考えを持てるようにする機会である。

③ 国際交流

海外から日本に来ている留学生や科学・技術者に学校生活や日本での生活、研究内容や母国に帰ってからの夢などについて、英語を使ってインタビューする。女子中高生のコミュニケーション能力や語学力の向上に生かすことを目的とする。

④ 夏学卒業生 Home Coming Day

過去の「夏の学校」卒業生が会場に集まり、参加者である女子中高生に対して理系進路に関する相談活動を行う。女子中高生が理系への進路に対して明確な考えが持てるようにする機会である。

(11-2) サイエンスカフェⅡ「科学・技術者、大学生、新社会人との座談会」【保護者用】  
15:30～17:30

女性の科学・技術者、学生TA、新社会人との座談会を通じて、理系進路選択の現状やその魅力について知る機会である。

(11-3) サイエンスカフェⅡ「中学、高校、大学の教員の連携」【教員用】  
15:30～17:30

中学、高校、大学の教員による連携を促進するために、理科や数学など、理系科目の授業展開などについて、講義やグループワークを行う。

コーディネーター 森 義仁（お茶の水女子大学理学部准教授）  
柴田 純（宝仙学園中学・高等学校教諭）

(12) 交流会  
18:00～19:00

(13-1) 学生企画「キャリア・プランニング」【女子中高生用】  
19:15～20:45

各グループで自分の具体的な進路についてお互いに話し合い、オリジナルの「才媛双六」を作成する準備を行う。話し合いや研究者・技術者へのインタビューなどを通じて、自分の考えをうまく表現する力を身に付けることを目的とする。

(13-2) サイエンスカフェⅢ「日本学術会議、学会、大学、企業等の科学・技術者との座談会」【保護者・教員用】 19:15～20:45

学会、大学、企業等で活躍する研究者・技術者との対話やグループ討議などを通じて、理系の分野での女性の活躍や今後の期待に対する現状等を知り、女子中高生への支援の在り方について考える場である。

講師 渡辺 政隆\*（日本学術会議連携会員、筑波大学教授）

他に男女共同参画学協会連絡会、大学、企業等から1名ずつ（調整中）

(14) 科学・技術者やTAへのキャリア・進学懇談会<希望者のみ参加>

21:00～22:00

女子中高生の理系進路選択に向けて、研究者・技術者や学生TAとさらに話をしたいという参加者のために、進学や就職など、将来のことに関する懇談会を行う。

<第3日 8月10日（土）>

(15) 学生企画 サイエンスアンバサダーⅡ「自分の将来について考えよう」

9:00～11:00

合宿研修のまとめとして、各グループでオリジナルの「才媛双六」づくりと、個人による「夏学タイムズ」という新聞づくりを行う。これまでのプログラムから学んだこと、考えたことを生かし、これからの自分の将来について双六に表したり、新聞にまとめたりすることで、表現力の向上や学校や地域でのアンバサダー活動に役立てることを目的とする。

(16-1) 応援します！サイエンティストへの道（NWECプログラム）【保護者用】

9:00～11:00

女子中高生の長期的なライフプランニングや男女共同参画について積極的に考える機会として、男女共同参画の歴史や現状に関する講義や女子中高生の理系進路に関する保護者同士の忌憚のない意見交換を行い、3日間の研修を振り返る。

コーディネーター 調整中（国立女性教育会館）

(16-2) 応援します！サイエンティストへの道（NWECプログラム）【教員用】

9:00～11:00

3日間の活動を踏まえ、それぞれの学校に戻った時にこの合宿研修の経験をどう生かすかについて考える機会として、教員同士のディスカッションや進路指導、教科指導に生かすための指導略案づくりを行う。

(17) 学生企画「夏学振り返りと表彰式」

11:15～12:00

参加者が一堂に会し、3日間の振り返りを学生スタッフの企画により行う。

(18) サイエンスアンバサダー任命式・閉校式

12:00～12:45



女子中高生の参加者全員がサイエンスアンバサダーに任命する。自分の学校や地域に戻った後、アンバサダーとして「夏の学校」の体験を伝えることを目的とする。

**任命**      **長妻 努**(企画委員長 (地球電磁気・地球惑星圏学会) )

(\*印の講演者等は、本分科会委員)

(主催者追加後)

「平成25年度日本学術会議東北地区会議公開学術講演会  
サイエンストーク『宇宙ファミリー』」の開催について

1. 主催

日本学術会議東北地区会議、日本学術会議科学と社会委員会科学力増進分科会

2. 共催

八戸工業高等専門学校、日本学術会議同友会東北部会

3. 後援(予定)

青森県、青森県教育委員会、八戸市、八戸市教育委員会、NHK青森放送局、デーリー東北、東奥日報、青森放送テレビ、青森テレビ、青森朝日放送

4. 日時

平成25年9月14日(土)13:30～16:45

5. 場所

八戸市地域地場産業振興センター「ユートリー」  
〒039-1102 青森県八戸市一番町1丁目9-22

6. 開催趣旨

小惑星探査機「はやぶさ」が奇跡的に地球へ帰還したことは、国民に大きな感動を与えました。現在、「はやぶさ」が持ち帰った小惑星「イトカワ」の微粒子について国際研究が実施されるなど、宇宙に対する興味はつきません。日本学術会議の会員である川口淳一郎先生、須藤靖先生と、宇宙飛行士向井千秋さんの夫である向井万起男先生をお招きし、最近の宇宙科学のお話をしていただくことになりました。多くの皆様のご参加を期待致します。

7. 次第

I. 開会挨拶(13:30～13:40)

大西 隆(日本学術会議会長、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特別招聘教授)

## II. サイエンストーク

(1) (13:40~14:15) (質疑応答 14:10~14:15)

川口 淳一郎 (日本学術会議第三部会員、(独)宇宙航空研究開発機構  
・宇宙科学研究所・宇宙飛行工学研究系教授、シニアフェロー)

題目：太陽系大航海時代の幕開け

(2) (14:15~15:00) (質疑応答 14:55~15:00)

須藤 靖 (日本学術会議第三部会員、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻教授)

題目：もうひとつの地球の色は何色？

(3) (15:00~15:45) (質疑応答 15:40~15:45)

向井 万起男 (医師、元慶応義塾大学病院病理診断部部長・医学部助教授)

題目：(未来の有人宇宙旅行 ―宇宙兄弟のお話― (仮題))

～休憩 (15:45~15:55)～

## III. パネルディスカッション(15:55~16:45)

(「はやぶさ」に続く次の計画。第二の地球・系外惑星の話・宇宙の生命体。  
火星の有人探査について。(予定))

8. 人数：先着 300 名

9. 参加料：無料